

会員の掲示板

◇ルールとマナー

- この掲示板は、会則に基づき、会員相互の交流を深めたり、広げたりすることを目的としています。そこで、会員一人一人がマナーを守り、誰にとっても役立つ、有益な情報がたくさん投稿されることを願います。そのために最低限度のルールとして、内容や言葉遣いが
 - 対象を誹謗中傷したり批判したりするものとならないようにする。
(特に相手の心を傷付けるもの)
 - 人権に反したものとならないようにする。
 - 反社会的なものとならないようにする。以上の約束をお守りいただき、気持ちの良い掲示板にしていきたいと考えます。

◇投稿のやり方

- 投稿する会員は、御自身の原稿をPDFデータにして、◆投稿用メールに添付してお送りください。
- 原稿の中には、必ず、会員番号と氏名を入れてください。また、メールの表書きには、いつまでの掲載を希望するのか、希望掲載期間を明記してください。期間の明記が無いものは、基本的に期間を一ヶ月とします。

◇注意事項

- 投稿されたものは、会長・副会長で確認し、全員の了解が得られれば、庶務担当副会長が「会員の掲示板」に載せます。載せる前には投稿された会員あてに、その旨連絡いたします。
- 万一、載せられないものについては、その理由を会員に返信し、載せられるよう修正したものを再度投稿していただけるよう依頼いたします。

～御理解と御協力の程、よろしく願いいたします～

真菌が何とかしてくれる!!

6年前に榎村浩一先生の真菌研修会が行なわれた。大変好評な研修会だった。「酵母も真菌だから、次回は是非、午後から研修会を開催し、夕方から日本酒を酌み交わしながら榎村先生との懇親を深めたいですね」という宿題が課された。研修会参加のOB会員が榎村先生の温かいお人柄に触れ、是非、懇親を深めたいと思ったからだと拝察している。

今回の研修会は、私たちの熱い思いを受け止め、公務多忙の中、日程調整をしていただいた榎村先生の御厚意に甘えての実現となった。榎村先生とは、私が八王子市の教員時代(管理職も含めて)、小学6年生の科学教育センター夏期講座の一環で、タラの白子を使用してのDNA取りだし実験でお世話になった関係から始まった。20年以上毎年DNA取り出し講座を行ない、その後必ず帝京大学付近で懇親会が開かれた。その度重なる懇親会で、私は榎村先生と会話を弾ませ親しくさせていただいた。現在では帝京大学医真菌センター研究員として私のチョウ研究でもご支援をいただいている。



榎村先生は大学の地域貢献の先駆けとしていち早く次世代を育てる事業立ち上げた。子どもを育てる重要性に気付かれていたのである。育てる教材として、DNAを使用し、帝京大学八王子キャンパスの医真菌センターで着手され今日まで脈々と続いている。今回の研修会も地域貢献の一環、子ども版でなく大人版である。人間的な触れ合いを大事に思う榎村先生だからこそできた研修会と懇親会である。

私は今回の榎村先生の研修会で心に残ったことは、地球の歴史の中で真菌の果たす役割が非常に大きいという話である。30億年以上前、地球は真菌で覆われていた。これから先、未来においても、真菌の果たす役割は大きいと感じた。一例であるが、プラスチックごみのことである。長い年月をかけて真菌がプラスチックを分解できる話である。人体の中にも真菌は入っている。真菌は大きなジャンルでは動物に入り、真菌近くには鞭毛虫(人の精子に似ている)や動物の系統樹がつながっている。私は閃いた。「人間の精子以外の身体部分は何なのだ!?無くていいじゃないか」地球で人類が絶滅しても真菌が分解して、また真菌の覆う地球になるかも……壮大なドラマだ。人間の自然破壊でしっぺ返しを受けている様々な地球現象の一つ一つについて、真菌が何とかしてくれると考えれば、気持ちが楽になりますね。

福田 晴男



最新の科学にふれて…

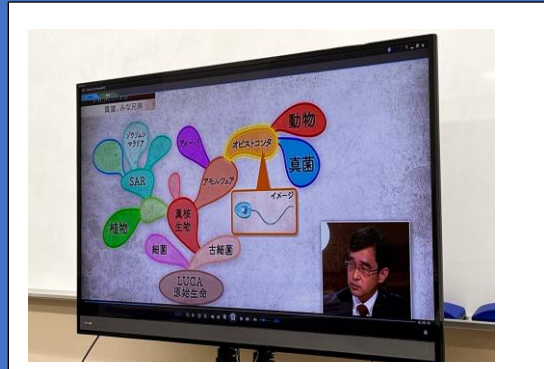
榎村先生の濃くて速いお話に一生懸命ついてきました。真菌を知ることで、生物世界の見方が変わりました。ヒト(動物)と真菌はオピストコンタ、近い仲間なのですね。また、レーザーをぶつけて飛び上がる高さを測定する実験装置、宇宙に近付けるために無重力にする実験装置、真菌の顕微鏡映像など、全て興味深く見学しました。そして、真菌のプラスチック分解能に希望を感じました。最新の科学に触れる機会をいただき、感謝申し上げます。

鈴山 尚子

真菌というもの

医真菌研究センターでの研修ということで、参加以前は何のことを研究しているところなのか、そして、私はどのようなことを研修するのだろうかなどと、ただ漠然とした気持ちのままに当日を迎えました。しかし、真菌というものが生物の起源や進化の過程において大変重要な位置付けを担っているものであることや、私たち人類との長く深い関係について実は切っても切れない関係にあるということを知りやすい内容で学ぶことができました。

福田 昌弘



講師 横村先生から

福田先生

先日は遠いところをお疲れ様でございました。

皆様ハツラツとされていて、とてもOBとは思えない熱量を感じました。

真菌にも大変興味をお持ち頂けて恐縮でございます。

遅くなりましたが、情報交換会のお写真を添付致します。

また、先生にお会いできる日を心よりお待ちしております。

誠にありがとうございました。



真菌って何？

真菌って何？ 研修会に参加する時点での私の知識は、ほぼ皆無状態でした。

帝京大学板橋キャンパス・医真菌研修センターにおいて榎村浩一教授のご講演をいただき、私たちの身近に存在する生物だということがはっきり理解できました。“みずむしは真菌”に親しみ感を覚え、真菌とはカビ+キノコ+酵母の総称であること、今注目されているプラスチックを分解する真菌がいること、地球の歴史上最古にして最大の生物は真菌であり、地球は真菌の惑星であること等のお話にも驚かされました。

また、いただいた研究冊子から、榎村先生が八王子市内の小学生を対象とした「子ども科学教室」にて直接子供たちにご指導いただいていることも知りました。私たちがご指導いただいたことは、そのまま現職の先生方にもぜひ聞かせたい内容でもありました。この研修会を企画し、開催にあたってご尽力くださった研修担当副会長・福田晴男先生に心から感謝です。



最後の懇親会場にて、ほろ酔い加減でお聞きした「天然のキノコは食べるべきではない。食して安全と言われるキノコでも、いつ毒が発生してもおかしくはない。本当においしく食せるのは栽培キノコである」という教えにも納得させられました。

中村 守

真菌は人類の比ではない（研究者の日々のご努力に感謝）

「真菌は、動物と兄弟である。」と言われた榎村教授の話に、まずびっくりした。榎村教授の説明を伺うと、樹形発生図により、古細菌→真核生物→…→オピストコンタと辿り、これから真菌と動物に分かれているのである。「なるほど。だから兄弟なんだ。」と驚きから納得が変わった。

私の頭では、真菌のうちキノコ類は、食用のシイタケ・マツタケ～毒キノコのカエンダケなど 10 数種、酵母やカビ類を含めても 30 種までは届かない。ところが、地球上には、真菌が 150～800 万種在ろうと説明があり、そのうち現在分かっているだけでも 10 万種在るというのだ。地球上で最古・最大の生物は、真菌であり人類の比ではない。

しかも、レベル2のラボラトリーの見学では、「真菌を約 5000 種弱保存している。」と聞いた。この数だけでも、日々新種を発見しているであろうと容易に想像出来る。

一つのことを究めるということは、時間と手間を掛け、壁を乗り越えたうえでの発見と思考、派生へと連続していく。この努力の上に、更にこれを人類のために如何に生かせるかも同時に研究されている榎村教授をはじめ研究室の皆様のお姿に、深い感銘を受けた次第である。

大門 康雄

会員の皆様 声をお寄せいただきありがとうございました。

やっていただける方いませんか？

新しい情報です...

都小理の地球委員会の研究推進 戸田道寿 副校長先生から・・・

知っていらっしゃる先生がいらっしゃいましたら、至急連絡くださいとのことです。

勤務地： 足立区立中島根小学校
内容 担当教科「図画工作科」
時期 令和7年の1月より

連絡先
03-3850-4071 副校長 戸田まで

9月の研修より 会員の声

○小石川植物園

年間パスポートで日常的に訪れている場所ですが、園内の長い歴史を物語る由緒ある植物や遺構をじっくりたどることは初めてでした。

改めて、研究に取り組んできた方々の地道な努力に思いをはせました。

園内にはヒガンバナが美しく咲いており、晴れていたらアゲハが舞飛ぶ姿を見られたらと、雨天を残念に思っていました。

それだけに、フヨウの花に止まっているイチモンジセセリやアシタバを食べているキアゲハの幼虫を見つけたときは、命のきらめきを感じて嬉しく思いました。

鈴山 尚子



ヒマラヤスギ球果



精子発見のソテツ



アキノキリンソウ温室



オオシマコパンノキ温室



カラスウリカラスウリ



キアゲハとアシタバ



シダ園



ショクダイオウコンニャク温室



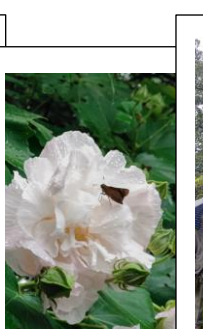
ニュートンのリンゴ



ヒガンバナ



ヒマラヤスギ球果



フヨウイチモンジセセリ



メンデルのブドウ



甘藷試作跡の碑



旧養生所の井戸



精子発見のイチョウ

5月の研修より 会員の声

ご縁でできた研修・・・大満足!!

21年前、校長に昇任し、八王子市立由井第三小学校に着任したときのPTA会長が中西一弘さんでした。130周年行事、地域との共同教育活動などの要に仲西さんがいました。そのご縁で今回の研修会ができました。中西さんの先端に行く農業経営からOB会参加者は多くのことを学び、大好評でした。参加者は新鮮なアンデスレッド（じゃがいも）や大根の収穫体験をさせていただき大満足でした。

福田 晴男



楽しい研修に、感謝!!

大変楽しい研修でした。特にAIを駆使していること、天候を記録する設備を設置し予測していること、試験栽培をしていること、土づくりに力をいれていることなど素晴らしいと感動しました。その全ては、理科の学習がもとになることを感じ、ますます楽しかったです。さらに、ベースになっているのは中西さんの人間力、これからは様々な場面で協働する力、コラボする力が必要だと感じました。また、二世帯同居している私にとって「老いては子に従え」が妙に、心に刺さりました。最後はおいしいお昼ご飯で、お腹も心も大満足でした。このような研修を企画してくださりありがとうございました。

土田 恵美子



勉強になった！実り多い研修会

イトーヨーカドー多摩センター店で中西ファームの葉付きニンジン、ダイコン等の野菜を買うので、今回の研修を楽しみにしていました。AIを活用した農業の話や聞き、勉強になりました。アンデスレッドジャガイモ、ダイコンの収穫体験をさせていただき、楽しい実りの多い研修会でした。ありがとうございます。

江平 秀子



実感！痛感！学びの多い研修会

5月22日（水）晴天の中、第1回の会員研修会が八王子にある中西ファームで実施されました。総会が終わったばかりで、少々お疲れ気味の私にとっては心身ともに大変有意義なりフレッシュ時間となりました。「金は出すが、口は出さない」という代表取締役である中西一弘・講師の経営や後継者育成に対する確かな信念が伝わってきました。伝統的な農業手法を大切にしつつも、新たなチャレンジを積極的に続けている、そんな前向きな精神力がこれからの近郷型農業を牽引するには不可欠だと実感しました。今急騰している一般的な葉物野菜等から果樹（現在の重点はシャインマスカットとのこと）やキノコ類等へ手広く新展開するポジティブ思考や的確な判断力が、これからの開拓者として必須だと中西講師のお話を伺って痛感しました。実際に畑に行き、ジャガイモ・カブ・ダイコン等のなじみの少ない種を収穫させていただき、お土産をゲット。後は奥さんの力ではあるが、新鮮野菜の素晴らしさをおいしく食することができました。私が視聴しているいくつかのNHKドラマの撮影場所になっていることもお聞きし、より親密感を覚えました。よく研修場所を見回してみると、ドラマの1場面としっかり重なってきました。びっくりしました。

中村 守



近郊型農業生産者の眼から学んだこと

新ジャガを収穫した時、植えてから3ヶ月も経っているというのに、土壌である黒土がふかふかしていることに驚きました。生産者に伺うと「牛糞に竹チップを混ぜて土壌改善を行っている。その結果、病気の発生がなくなり丈夫に育った。」とサラリと回答して戴きました。また、ブドウ棚でも、1年目、2年目・・・と5年を掛けて計画的に枝を育て伸ばしていました。生産者の眼は、①植物の基盤である土壌の独自改善、②先を見据えた計画を見ていました。この視点は、実に参考となる生き方であると感じました。

大門 康雄

